

平成26年度第1回社会教育委員会議 会議録

【開催日時】 平成26年6月27日（金）

【開催場所】 教育委員会大会議室

【出席者】

（委員）

浅間委員、飯牟礼委員、近藤委員、岡本委員、佐野委員、柴田委員、中尾委員、
中島委員、森委員、星野委員、弓場委員、渡邊委員（12人）4人欠席

（職員）

高橋生涯学習部長、増田生涯学習部次長(兼生涯学習課長)、西沢文化・スポーツ課長、
日暮図書館長、斉藤鳥の博物館長、大野公民館長補佐、小林文化・スポーツ課長補佐、
辻文化・スポーツ課長補佐、望月、湯下

【傍聴人】 なし

【会議次第】

- 1 開会のことば
- 2 委員長挨拶（渡邊委員長より）
- 3 生涯学習部長挨拶
- 4 異動職員自己紹介
- 5 議事（議長：渡邊委員長）
 - （1）平成25年度社会教育施設利用状況について
 - （2）平成26年度主な社会教育事業について
 - （3）平成26年度第1回「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会の報告について（森部会長）
- 6 報告事項
平成26年度東葛飾地区社会教育連絡協議会事業計画及び予算について
- 7 その他
- 8 閉会のことば

【配布資料】

- 資料1 平成26年度東葛飾地区社会教育連絡協議会事業計画及び予算書
資料2 平成25年度社会教育施設利用状況
資料3 平成26年度主な社会教育事業

【議 事】

1 平成25年度社会教育施設利用状況について

資料2「平成25年度社会教育施設利用状況」について各所管から補足説明。

- 生涯学習課長：企画調整担当の地域交流教室については前年度に比べて158件増えている。結果として5.8パーセント増加した。視聴覚ライブラリーの利用件数は15件減少し、5.4パーセントの減少である。16ミリフィルムは5件減少し、2.6パーセント減少している。ビデオの貸出しは前年度に比べ55.6パーセントの減であるが、件数にすると10件の減でこれはもともとあまり貸出がなかったためである。DVDの貸出件数は17件の減で16.2パーセントの減である。一般の件数が減って、社会教育関係団体の件数が増えている理由は、集計の基準が変わったためである。平成24年度は自治会の役員の方を一般としてとらえている。
- 公民館長補佐：各学級・アビコでなんでも学び隊の年間参加人数は6,299人となっている。利用状況は我孫子地区公民館・湖北地区公民館の利用回数あわせて11,171回、利用者数は238,935人となっている。前年度と比較すると回数は若干増えているが利用者数は減になっている。主な理由は一つの利用団体あたりの参加人数が減っていることがあげられる。湖北地区公民館については、25年度は衆議院や参議院の選挙があり期日前投票の場所になっていたため、期日前投票の期間中の利用者がかなり減少した。出前講座の利用件数は若干減少している。
- 文化・スポーツ課長：白樺文学館の平成25年度の入館者数は3,369人、前年度と比べて若干減少し、杉村楚人冠記念館は2,423人で前年度と比べると若干増えている。体育館等の施設利用は年間で20万人弱である。ふれあいキャンプ場については7,354人、前年度と比べると若干減少している。
- 図書館長：開館日数が昨年度に比べ少なくなっているのはシステムの入れ替えがあったためである。録音図書等の郵送貸出利用状況は、市内朗読ボランティアとの協働事業となり貸出件数は大幅に伸びている。宅配サービス相談件数は若干増えているが、全体的に利用者数は高齢化の影響か減少している。
- 鳥の博物館長：入館者数は前年度に比べ1,857件減少している。その原因としては11月に開催されるジャパンバードフェスティバルの来場者が、前年度は気象に恵まれ約4,000人であったのに対して25年度は約3,000人だったためと考えられる。また、2月は一週間に渡って大雪が降り来館者がゼロの日が1週間に続いたのも要因になっている。ミュージアムショップの売り上げは前年度に比べて100万くらい増えている理由はクールビズに対応してポロシャツを販売したためである。
- 弓場委員：昨年は、資料で平成20年度から平成24年度に至る来館者の動きが示されていて減少傾向にあるという説明を受けた。しかし、今年は同様の資料が無く、最近の傾向と年度ごとの説明も無かった。
- 鳥の博物館長：最近の傾向としては震災の起きた23年以降一般入館者が減少し、そ

れが続いている状況だったが少しずつ回復傾向にある。老人介護施設や高齢者の方たちの来館が増加傾向にあるがトータルしてみるとやはり減少傾向である。

- 弓場委員：資料の中に前年比はあるべきだが、前年比が書いていないものと書いてあるものがある。資料は読む人の立場に立って作っていただきたい。文化・スポーツ課資料、「平成25年度体育施設利用状況表」だが、今年は前年度比が書いていない。それぞれについて経年変化を書いていないと、数字を理解するのは難しい。
- 渡邊委員長：今後の資料について、考慮していただきたい。
- 星野委員：生涯学習課公民館担当のメニューについて、高齢者向けの社会教育のメニューを是非増やしていただきたい。この中のメニューで、どのようなものが高齢者教育に該当するか教えていただきたい。役所が中心になってメニューを提供し、皆さんに勉強してもらい、知識を提供するという時代はもう終わったと思う。高齢化社会の中で役所が行うべきことは社会教育を通して社会貢献を促すという構想をしっかりと出していくことではないか。見たところそれがはっきりわかるようなところがない。私に関係している団体で流山市のゆうゆう大学という所がある。そこから80人位の方を対象に、成年後見制度と市民後見人という切り口での社会貢献を促すような講義をしてもらいたいと申し出があった。私の立場から言うと我孫子からそういうような申し出があれば喜んで何うが、残念ながら流山市から来ている。我孫子市は高齢社会の中で対応できなくなっている。市民が市民を支える、地域が地域を支えるという市民の意識を作り上げていくのが社会教育の最も大きな使命である。また、他の市が進んでいるということをあわせて申し上げたい。
- 生涯学習課長：以前よりそのような提言はお聞きしていましたので、長寿大学の講座メニューをまちづくりの担い手づくりに貢献できるようなものを徐々に増やしている。これからもできるだけ増やしていきたいと思っている。
- 星野委員：お配りした「新しいふれあい社会」は認定NPO法人東葛市民後見人の会が発行している月報である。(当日配布の資料あり)この執筆者は榎場さんという方で、年齢は85歳。社会貢献というのは定年がない。年齢制限もない。高齢だとか、若いとかいうことは全く関係がない。是非持ち帰って読んでいただくとありがたい。現実に我孫子市で様々な出来事、事件が起こっている。閉じこもりなどはひどいケースになると、学校のいじめが原因で20年、30年、40年も閉じこもっている方が大勢いる。そのような問題を浮き彫りにして市民のみなさんにしっかりと考えていただきたい。学校の先生にも考えていただきたいと思い、教育委員会の総務課にお願いしたら市内の小中学校の先生約750人に働きかけましょうという大変ありがたいお話をいただき感激した。時代背景をしっかりととらえながらこれからの時代の社会教育の構想についてご検討いただきたい。
- 渡邊委員長：この件については、26年度の事業にすぐ反映できないかもしれないが、そういう気持ちをもって取り組むということでもよろしいか。

- 生涯学習課長：そういう視点で検討していきたい。
- 星野委員：社会教育委員になる目的が社会貢献を促すことだったが、残念ながら我孫子市はまだそこまで進んでないというような認識を持った。最後ですのであわせてそのことをふれておく。
- 弓場委員：市のホームページの事務事業評価表には、年度ごとに部の運営方針や課の目標、施行事項、改善策、事業の指標、現況値、目標値などが公開されている。25年度はまだ記載されていないのではないかな。
- 生涯学習課長：細かくは出ていないが、指標になる数字は出ていると思う。
- 弓場委員：事務事業評価表を見ると管理運営の現状と評価が書かれているため、どの事業が、どのように行われているか一目瞭然である。このように市の年度事業がデータとして示されることは、情報公開という意味で非常に重要と思う。
- 生涯学習課長：ホームページでも公開しているので資料として社会教育委員会議で出すことは可能である。
- 渡邊委員長：教育委員会だけではなく、他の人にも見られるようにホームページはどんどん更新されるべきということだろう。
- 生涯学習課長：議事録や確定した数字は、ホームページになるべく早く載せるようにしたい。
- 中島委員：公民館の利用状況で、利用回数は変わらないのに利用者数は減っているということで、団体あたりの利用者数が減っているのではないかな。
- 公民館館長補佐：利用団体は増えている。利用する時の人数が減っている。

(2) 平成26年度主な社会教育事業について

資料2「平成26年度主な社会教育事業」について各所管課から補足説明。

- 生涯学習課長：2月の第3回社会教育委員会議でも説明しているので、事業名・概要・金額等変わっていないものは省略する。執行済みの業務や内容が変わったものについて説明する。「16ミリ映写機操作講習会」は既に2回講習会を開いている。7月にも3回を予定している。成人式の開催について、27年から成人式の日を成人の日の前日の日曜に変えた。その関係で周知徹底する必要があるため、広報で例年より多くお知らせを掲載する。また、5月に対象者全員に開催日の変更のお知らせを郵送した。「子どもの権利条約理解講座」実施校が、前年5校だったが今年度は4校になった。
- 公民館館長補佐：公民館事業は政策費として、公民館空調設備更新工事設計がある。その他は昨年度と変わらない。
- 文化・スポーツ課長：発掘関係が4件で26,778,000円(経常費)、民間開発発掘調査はまだ始まっていないが、不特定遺跡発掘調査や考古遺物整理は実施を始めている。杉村楚人冠邸の保存と活用に12,189,000円、白樺文学館の運営に11,915,000円を政策費で計上している。次は文化振興担当では、7月1日

には文化祭の作品募集の広報を出し、その段階で実際に開催する日にち等もあわせて告知をすることになっている。スポーツ振興担当は金額が大きいものがたくさんある。一千万を超える事業としては、ふれあいキャンプ場については、トイレや一部集水桝に傷みが出てきているのでその修繕等を見込んでいます。市民体育館改修事業についてはトレーニングルームと事務室の空調の設計と2階のトイレの修繕が入っている。市民体育館は建ってからかなりの年数が経っており、あちこち傷みが出ているため、毎年このような形で直しながら利用する状況が続くと考えられる。

●図書館長：図書館は昨年とほぼ同じような事業となっている。資料の収集、資料・情報の提供、子どもの読書環境向上への取り組み、ハンディキャップサービス、高齢者へのサービスを行う。子ども達への読書の普及に力を入れるため、平成26年3月に我孫子市在住の上橋菜穂子さんが児童文学のノーベル賞と言われる国際アンデルセン賞を受賞したので、図書館では講演会の実施を要請している。

●鳥の博物館館長：施設が25年経ちかなり老朽化しているので施設の整備を行っていく。1つは館内の照明のLED化を進める。これは段階的に行っており、今年で3年目になる。1年目は展示室の天井、2年目はレクチャールームの天井、3年目は玄関、来館者の入る独立スペースをLED化する。また、空調機がかなり老朽化しているので、空調機の修繕を行う。

また、展示の魅力を再発見してもらおうという趣旨で市民スタッフボランティアに館内を案内してもらっている。今年の4月26日から鳥の博物館、杉村楚人冠記念館、白樺文学館を3館見てもらおうということで3館共通券を発行した。そのためのPR用として、ポスターやチラシなどの作成の為150,000円計上している。これはすでにスタートし支出している。

○星野委員：社会教育事業の資料を見たところ、ざっと3千万円くらい、人件費を含めると5・6千万という費用を毎年投入して貴重な文化財の発掘に努力されているが、発掘の状況について、現在年次報告のようなものがでてきているのか、簡単にアクセスできるものがあるのか教えていただきたい。また、以前我孫子市役所でいろいろな発掘品が展示されていたと思うが、今はそういった展示場が全くない。現在水の館の処理について困っているということであるし、我孫子は非常に水と絡んだ地域なので、水の館を常設の展示館とし、発掘品や各家で眠っている古文書などを常時展示できるよう、前向きに進めていっていただきたい。

また、杉村楚人冠記念館、旧村川別荘、井上家住宅に毎年高額な維持費がかかっている。これは古い建物を寄付してもらえばかかって当たり前である。柏の旧吉田家住宅は古い建物と7千坪の土地を柏市に寄付していただいたと聞いている。杉村楚人冠邸・旧村川別荘は古い建物を寄付してもらい、土地については買い取る、というようなケースであったと認識している。今後このような寄付の話があった時は、名前を冠として残すのであれば粘り強く交渉し土地も寄付してもらおうよう検討していただきたい

い。

- 文化・スポーツ課長：杉村楚人冠記念館・白樺文学館の予算額については、現場にいる職員の人件費も含めてこの金額になっていることを了承願いたい。また、土地については、交渉をする中で寄付という話もしているが、杉村楚人冠記念館については5年、井上家住宅については3年という年月をかけ交渉し、市指定文化財として価値を認めて市として残していくということで土地を買わせていただき、建物を寄贈していただいている。相手あってのものであり、もし交渉がうまくいかなくなると、文化財として残るものも残らなくなってしまうため、相手との兼ね合いがどうしても出てくる。皆さんのお力添えをいただきながら土地も寄付していただけるという形で進めていければ最高だと思っている。

水の館については2階・3階部分を使いたいという気持ちは持っている。また、アビスタができるときに文化財の展示スペースを要望したが、どちらも調整がつかず今の状況となっている。東葛地区で歴史に関する展示が無いのは我孫子市だけなので、これからも機会があるたび要望し、内部調整に力を入れていきたい。本日出席されている皆様にも後押しをお願いしたい。

- 文化・スポーツ課課長補佐：文化財の発掘調査について「市内遺跡発掘調査報告書」という冊子を毎年刊行にしている。民間開発については事業面積も広く、全部についてはまとめきれないため確認調査までだが、それについても調査報告書の中で報告をしている。本来であれば展示室を設け、速やかに出土品を展示することで情報提供をしたいが、現在は展示室が無い現状なので旧村川別荘で文化財展示会を開き出土品を見ていただいている。昨今では発掘現場から直接土器を持って学校へ出向いて行き、子ども達に触ってもらう体験授業を行っている。また、長寿大学や市民講座で講師をさせていただく中で古代の遺跡についても報告し、展示室の件についても皆さんにバックアップしていただきたいと伝えていく。

- 文化・スポーツ課長：民間開発発掘調査の5,832,000円という金額に触れさせていただく。これは民間の業者からもらうお金で出と入りが全く同じです。これについては他の事業とは全く異質なもので民間の業者が多くて一千万かかれば業者が一千万もらっているという、他の事業とは全く異質なものである。

○星野委員：説明で概ねわかった。勉強していきたい。

○中尾委員：施設が老朽化すれば色々なところに修理代がかかるなど、施設を持つということはお金がかかる。これから人口減に向かって我孫子市が本当に必要な施設か、市民に利用される施設かを吟味していかなければいけないと思う。井上家住宅は、予算では井上邸の保存と活用というタイトルになっているが、今は保存のところにお金がかかっている。これだけでは活用という青写真が見えていない。小さくなる収入の中で本当に活用していくためには修理も改修も必要であるし、寄付を受けるのも必要だが、今後貴重な建物の寄付があった時には本当に必要な施設かどうかを吟味する必

要がある。

本当に活用するもの、これから後の人達に残していきたい我孫子市らしいものを改めて精査する必要がある。これからずっと住みやすい街になっていくためには文化の点でも予算の点でもどうしたらよいかを専門家である職員の皆さんが考えていっていただけたらと思う。井上家住宅は保存は載っているが、活用までには至っていないし、埋蔵文化財については大事なところなのに、まだきちんとした方向性が見えていない。

- スポーツ・文化課長補佐：ご指摘のとおり井上家住宅の保存と活用については保存の内容しか載っていない。何故かというと井上家住宅というのはもともと個人の持ち物であったが、我孫子市所有になってからは公共施設と同じ扱いになるため、例えば消防法をクリアしているかどうか、耐震の補強工事は必要か否か等の問題が出てくる。文化財としての価値を損なわないような修復を行わなければならないため、昨年度基本設計を作成し、今後どのようにこの建物を修復していくかを定めた。修復費用が高額になるため、財政課とも調整し今後10年間をかけて建物を少しずつ直していく予定である。このようなことから、まず建物の修復をするのを第一としている。活用については、井上家住宅の存在を知ってもらうことが必要だと思い、風鈴を吊るしたり、ひな人形を飾ったりして市民の方に見に来てもらうことで井上家住宅の存在を知ってもらうよう努力している。

埋蔵文化財の展示スペースについては、単独で持てなくても共有のスペースを何とかうまく活用できるよう、情報収集して場所を確保していきたい。

- 星野委員：井上邸の古文書は大変素晴らしく、歴史的な文化財だと思うがかなり虫にやられている。ですから井上邸の古文書をきちんと保存し、展示する体制を将来に向けて検討していただきたい。

- 文化・スポーツ課長：井上邸の古文書に関しては、井上家というよりは布佐の歴史・干拓の町という二つの大きな柱がありますので貴重な資料だと認識している。現在、防虫については建物の修復とあわせながら保全策を考えていくため、私どもの方で古文書を全てお預かりし調査をしている。

- 岡本委員：埋蔵文化財は公開されているのか。公開されているのであれば、何処に行けば見学できるのか。一か所で見られるのが望ましいが、分散収蔵・展示されているのであれば、その場所と内容を一目でわかるように示してもらいたい。また、手続きが必要ならばその方法も示していただきたい。

他の文化施設、史跡等とともに見学ルートを作り、歩いて見学できるようにしていただければ我々市民が歩いて尋ねることで健康増進と知識の向上にもつながるという利点がある。また、ルート上にある飲食店等の施設を紹介すれば市内の活性化にもつながる。

- 文化・スポーツ課課長補佐：常に見ていただける場所は教育委員会の建物の下である。埋蔵文化財をどこかへ持って行って展示する場合は、広報あびことホームページで呼

びかけをしている。布佐は干拓のまちというだけでなく、たとえば大震災の時に大きな洪水があったし、戦前で言えば20年ごとに水害を受けていたが、たくましく復興してきた。井上家住宅はそういう姿を感じてもらえるような非常にすばらしい建物である。

- 星野委員：井上家住宅のような文書はなかなかない。東京大学あたりに持って行ったら相当な研究材料になると思う。大事な事は一次資料ではない。おっしゃる通り水害の歴史、新田開発の歴史等を含め、一次資料に色々な歴史が詰まっているのであって二次資料三次資料を作る基礎材料だと申し上げている。一次資料は大事でないとは言わないが、あくまでも一次資料であって、二次資料参事資料で加味してそこから出してくることは大事だと申し上げたい。
- 柴田委員：寄贈絵画の保存と活用についてですが、寄贈絵画は岡田正二さんだけでなくかなりの点数があると思うが、どこでどのように保存しているのか、また展示する場合は芸術家が担当し選んでいるのかを伺いたい。
- 文化・スポーツ課長：絵画の保管は基本的には教育委員会4階の小さい倉庫と公社があった1階の会議室に保存している。その他私共が選び、市内の各学校に3点ずつ飾っている。これについては学校と調整しながら交換をしていく。また、絵画展は毎年テーマを決め、例えば昨年だと手賀沼というテーマを決め、今持っているものを選んで展示をしている。
- 柴田委員：文化・スポーツ課の職員が選んだものか。
- 文化・スポーツ課長：基本的には文化・スポーツ課の文化振興担当がテーマを決め、それに合うようなものを選んでいく。

(3) 平成26年度第1回「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会の報告について、森部会長より報告。

- 森委員：平成26年度第1回「我孫子市社会教育推進計画」の総括に係る検証部会は、正副会長の選出、検証の目的、検証の方法の説明、検証スケジュール、検証結果という内容で議論した。検証の目的は、社会教育推進計画が平成16年度から平成26年度までという期間で、来年の3月末で終了するため、10年間の計画に対して目標が達成されたかどうかという調査、検証をする。社会教育推進計画は来年の3月で終わるが、これと並行して進められている生涯学習推進計画がその次の年に終了するため、平成28年度には新しく策定する第3次生涯学習推進計画に今回検証する社会教育推進計画を統合させる。第3次生涯学習推進計画ができるまでの1年間は生涯学習推進計画を適用させる。検証方法については各主管課が行っている主要事業について、実施事業調査票を配り今までの計画に実績がどうであったかを自己採点してもらい、これをもとに我々が検証を行う。検証スケジュールについては各担当から実施事業調査票が7月上旬か中旬に上がってくるので、その調査票を事務局が取りまとめて次回の

部会を開催し、実質的な検証に入る予定である。検証結果については報告書として作成し、社会教育委員会議に諮っていく。

- 渡邊委員長：実感覚として、報告書と違うのでは、という場合には、実際に調査票を作っていたところに聞きたいということを申し上げたので、実際はもう少し細かくなっていくと思う。回数もある程度決められているのでどこまでできるか、ですが努力していく。